

第4学年 道徳学習指導案

- 1 主題名 自分だけよければいいの？
(中4-(1) 約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ。)
資料名 「雨のバス停留所で」 (文溪堂)

2 主題設定の理由

○ 本主題は、集団や社会のきまりを守ることがなぜ必要なのかを考え、きまりを守ることが、人々が仲良く生活していく上で大切であることに気づき、集団や社会のきまりを守ろうとする心が自分の心の中にあることを自覚させることをねらいとしている。集団や社会のきまりは、人々が社会生活を営んでいく上で、その秩序を守っていくためには必要なものである。言うまでもなく、私たちの社会は、構成人員の公德心や規範意識によって成り立っている。もし、集団や社会のきまりがないならば、人々はどんな行動をしても規制されることはなく、誰もが自分本位の考えで行動することになる。つまり、集団や社会のきまりが守られることで、誰もが気持ちよく仲良く過ごすことができ、人々の生命・自由・幸福などといった基本的価値に対する権利が尊重されるのである。そのような、集団や社会のきまりが守られるべきことは、だれもが分かっている。しかし、最近、人の迷惑を省みず、集団や社会のきまりを破ったり、乱したりするケースが続出していることも事実である。集団や社会のきまりは、考え方によっては堅苦しい束縛であり、守ったものがかえって損をするという考え方が一部にあることも否めない。集団や社会のきまりが守られないのは、自分本位の行動によって他の人々がいかに迷惑を受けているかが理解されていないからであると考えられる。そのため、人々の共通の約束ごとである、集団や社会のきまりを人々が守ることによって、社会生活が円滑に行われ、誰もが心豊かに安全に、気持ちよく生活することができることを主体的にとらえることが大切である。

本資料は、次のような内容である。主人公のよし子が母と一緒におばさんの家でかける日は、あいにくの雨となってしまった。バスの停留所では、バスに乗る人々が雨やどりをしながら待っていた。バスが来るのが見え、よし子は雨の中を走りバス停の先頭に並んでしまう。しかし、母親に自分たちが並んでいた順番まで連れ戻されてしまう。バスの中では、いつもは優しい母が、知らぬふりをして窓の外を見つめているという内容である。本資料は、子どもたちにとって身近な内容であり、生活経験を引き出しやすいと考える。また、主人公の行為を批判的にとらえさせていくことで、主人公の行為とその行為に裏付けられた心情を深く考えることができ、集団や社会のきまりを守ることの大切さや、集団や社会のきまりを守ること、人々と仲良く生活できることに目を向けさせることができると考える。

この内容項目は、中学年4-(1)に位置づけられ、低学年4-(1)「みんなが使うものを大切にし、約束やきまりを守る」が発展したものであり、高学年4-(2)「公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら義務を果たす」へとさらに発展していく。

○ 本学級の子どもたちは、「廊下を走ってはいけない」や「みんなのものを大切に使う」などの学校や学級のきまりを守ろうとする規範意識は少しずつ育ってきている。しかし、まだ自己中心的な態度から抜けきれず、自分本位の考えかたに流されてし

まい、つい約束やきまりを忘れて校舎内を走ったり、学習で使ったものをいい加減に片付けて次の活動へ移ったりする姿が見られる。つまり、集団や社会のきまりを守らなくてはならないことについての知的な理解はできているものの、それらが子どもたちの行動になかなか表れていない。そこで、善悪の判断もかなり確かなものになっており、「集団や社会のきまりは、守らなければならない」「みんなの迷惑になるようなことはしてはいけない」といったことについては問われれば、概ね答えることができるようになってきているが、こうした理解が必ずしも行動と一致しないこの時期に本主題を取り上げることには、十分意義があると考えられる。そして、集団や社会のきまりを守らなければどうなるのか、迷惑をかけるとはどういうことなのかについて主体的にとらえさせたい。主体的にとらえさせることは、集団や社会のきまりを守ることのよさを感じ、子どもたちに集団や社会のきまりを大切にしようとする態度を育成することにつながる。

- 本主題の指導にあたっては、主人公よし子の行為や行為に裏付けられた心情を考えることを通して、集団や社会のきまりを守ることがなぜ必要なのかを考え、きまりを守ることが、人々が仲良く生活していく上で大切であることに気づき、集団や社会のきまりを守ろうとする心が自分の心の中にあることを自覚させたい。まず導入段階においては、学校生活でのきまりを提示し話し合うことで、本時学習のめあてをつかませる。具体的には、6月の生活目標を提示し、きまりがどうしてあるのかを考えさせる。その際、きまりを守ろうとしたが守れなかった経験や、迷いながらも守った経験を自由に話し合わせることで、ねらいとする価値への方向付けを行い、本時学習のめあてを提示する。次に、展開前段においては、資料「雨のバス停留所で」を読み、主人公よし子の心情を中心に話し合う。具体的には、まず、よし子が自分中心な考えから、雨の中をバス停の先頭に並んだときの気持ちについて考え、主人公の自己中心的な姿に気づくことができるようにする。その際、主人公の自分本位な考えから先頭に並んだときの心情を十分に推し量らせた上で、その行為についてどう思うのか考えさせ、主人公の行為に対して自分の考えを明確にする。次に、主人公がどのように行動していればよかったのかについて考え、話し合う。その際、主人公の取るべき行為だけではなく、周囲の人の心情にも目を向けさせることで、きまりを守ることが、自分以外の人々の気持ちにも関わってくることに気づくことができるようにする。そして、順番を守らずバスに乗り込もうとした主人公に、どんな気持ちがあればよかったのかについて考え、話し合う。その際、ねらいとする価値にせまることができるようにするために、主人公にどのような心があればよかったのかを考えさせる。さらに展開後段では、把握した価値を実現しようとする心が、自分にもあることに気づかせるために、これまでの自分の生活や経験を振り返らせる。その際、きまりを守って生活している自分自身を見つけるとともに、きまりを守って行動しているときの気持ちについても考えることができるようにするために、学校内できまりを守って生活する子どもたちの写真を提示する。最後に終末段階では、把握した価値の大切さを再認識させ、実践意欲を喚起するために、心のノート P70～71 を読み、学習のまとめをする。その際、子どもたちを他律的な段階から、集団や社会のきまりの意義を意識した自律的な段階へと高めるために、心のノートの「約束やきまりを大切にすること……これが人間のすばらしさです」という部分に着目させ、どうしてきまりを守ることが人間のすばらしさであるのか考えさせる。

3 ねらい

- どうして集団や社会のきまりを守らなくてはいけないのかについて考えることを通して、きまりを守ることで人と仲良く生活することができることに気づき、きまりを守ろうとする心が自分の中にもあることを自覚することができる。

4 本時 平成 年 月 日 (曜日) 第5校時 第4学年 組教室において

5 準備

- 子ども：心のノート
- 教師：資料，道徳ノート，場面絵，板書用短冊，価値を实践している子どもたちの写真（模造紙）

6 展開

段階	主な学習活動	主な支援	期待する子どもの姿
導入	<p>1 集団や社会のきまりを守った体験をもとに、本時のめあてについて話し合う。</p>	<p>※ きまりを守ることへ関心をもちさせるために、身近なきまりを取り上げる。</p>	<p>○ 自分自身のきまりを守る姿をふり返り、その時の気持ちについて考えている。</p>
／	<p>(めあて) どうして迷いながらもきまりを守ろうとしたのか考えよう。</p>		<p>○ 道徳的な場面における主人公の気持ちを考えながら読んでいる。</p>
展開前段	<p>2 資料「雨のバス停留所」を読んで、主人公の心情について話し合う。</p> <p>(1) バスが見えたとき、雨の中へ飛び出し、停留所の先頭に並んだよし子の気持ちについて考え、よし子の行為をどう思うか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ やっとバスが来た。これでぬれなくてすむ。 ・ 早く乗って座りたいな。お母さんのためにもいい席を取りたい。 <p>(2) よし子がどのように行動していればよかったのかについて考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 順番をきちんと守ってバスに乗ったほうがよかった。 ・ 周りの他の人々も、順番を守っているのだから追い越すのはよくない。 <p>(3) よし子にどのような気持ちがあればよかったのかについて考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 順番を守ろうという気持ちがあればよかった。 ・ 周りの人のことを考える気持ちがあればよかった。 	<p>※ 主人公が置かれている状況を的確に把握できるように、短冊を提示し、道徳的場面の状況を整理する。</p> <p>よし子は、どんな気持ちがあつてバス停の先頭に並んだのでしょうか。そんなよし子をどう思いますか。</p> <p>※ 主人公の行為に対する自分の考えを話し合わせるために、このときの主人公の気持ちを十分推し量るようにする。</p> <p>※ 周りの人々へも目を向けさせるために、「もし順番を守って乗っていたら周りの人々がどんな気持ちでバスに乗れるのか」という補助発問を行う。</p>	<p>○ 主人公の自己中心的な考えをとらえ、その行為を自分の価値基準で判断している。</p>
／	<p>よし子にどんな心があればよかったのでしょうか。</p> <p>※ ねらいとする価値にせまることができるようにするために、主人公にどのような心があればよかったのかについて考える活動を仕組む。</p>		<p>○ 主人公がどのように行動すればよかったのかについて考えている。</p> <p>○ きまりを守ることで、自分だけではなく、周りの人のことも考えることにつながることに気づいている。</p>
展開後段	<p>3 集団や社会のきまりを守って生活できた自分をふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 廊下や階段の右側を通ることで、安全に生活できた。 ・ バスに乗るときに同じように並んで乗ったことがある。やはり、順番を守ることは大切だな。 	<p>※ 把握した価値が自分の中にもあることに気づかせるために、きまりを守ったことだけでなく、きまりを守ったときの気持ちについても考えるようにする。</p> <p>※ ふり返ることができていない子どものために、個別指導を行う。</p>	<p>○ 自分にもきまりを守って生活することができた経験やできなかった経験をふり返り、きまりを守ろうとする自分に気づいている。</p>
終末	<p>4 心のノート P70～71 を読んで、きまりを大切にすることについて話をする。</p>	<p>※ 子ども一人一人に行為に対する身構えをつくることのできるようにするために、心のノートを活用する。</p>	<p>○ きまりを守ることの大切さに目を向け、実践意欲を高めている。</p>

(めあて)

雨のバス停りゅう所で

一 バスが見えたとき、雨の中に飛び出し停りゅう所のいちばん先頭にならんだときのよし子さんの気持ち



二 よし子さんはどのように行動していればよかったのでしょうか。

三 よし子さんにどんな心があればよかったのでしょうか。

○ 自分の生活をふり返ってみましょう。きまりを守って生活できた自分やできなかった自分を見つめてみましょう。そのときどんなことを考えましたか。

6月の
生活のめあて

きまりはどうしてあるのかな？

- ・廊下を走るとあぶないし、けがをするかもしれない。
- ・きまりを守らないと怒られることもある。
- ・守ろうとするけど、忘れてしまうことも。
- ・分かっているけど、できないことも。

めあて

どうしてまよいながらもきまりを守ろうとしたのか考えよう。

雨のバス停りゆう所で

お母さんとおばさんの家に出かける日

雨がいつそう強くなり、風も吹いてきた。

バスを待つ人たちが、のき下で順番にならんで雨宿り

時々、バスが来る方を見えています。

よし子さんは停留所のいちばん先頭に並びました。

このときのよし子さんの気持ち

自分はどう思う？

場面絵①
先頭に並ぶよし子

・ やっとバスが来た。
・ 早く座りたいな。
・ お母さんのためにも席を取ろう。

・ 自分のことだけ考えているので、よくない。
・ お母さんのことを思っていたのは分かるけど。

よし子さんはどのように行動していればよかったのでしょうか。

- ・ 順番を守ってバスに乗ったほうがよかった。
- ・ 周りの人たちのことをしっかりと考えたほうがよかった。

順番を守っていたら

- ・ 順番を守っていたら、待っている人たちも気持ちよくバスに乗れる。

よし子さんにどんな心があればよかったですか。

- ・ 早く来て並んでいる人の気持ちを考える心。
- ・ 順番を守ろうとするきまりを守る心。

きまりを守ることでいろんな人と仲良く生活することができる。

きまりを守って生活できたことやできなかつた自分をふり返ろう

- ・ 廊下や階段の右側を通ることができた。自分も安全に過ごすことができたけど、まわりの人も気持ちよく過ごすことができる。

- ・ バスに乗るときに同じように並んで乗ったことがある。きまりを守るとは、他の人たちのことを考えることだ。

初任者研修 道徳示範授業 「雨のバス停留所で」 発問計画

<p>1415</p>	<p>【導入段階】(約5分)</p> <p>T これを見てください。何でしょうか。そうですね。6月の生活のめあてですが、みなさんはクラスで話し合っ、「ろう下や階段は右がわをゆっくり歩こう」というきまりを決めましたね。ほかにもみなさんの身の回りには、たくさんのきまりがありますね。</p> <p>T それでは、みなさんの身の回りには、どうしてきまりはあるのでしょうか。(3名指名・板書)</p> <p>C あぶないから</p> <p>C 決められていて、守らなくてはいけない。</p> <p>C みんなが楽しくくらすことができるため。</p> <p>T そういったきまりをみなさんは守ることができていますか。</p> <p>C 忘れてしまうこともある。</p> <p>C いつもは守れていない。</p> <p>T 守れたり守れなかったり、どうしようか迷ったりしながらもきまりを守った経験もあるみたいですね。</p> <p>T それではどうして迷いながらもきまりを守ろうとしたのでしょうか。今日はそのことについてみんなで考えていきましょう。めあてを書きます。みなさんも道徳ノートに書いてください。(めあて板書)</p>
<p>14:20</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>どうして まよいながらも きまりを守ろうとしたのか 考えよう。</p> </div> <p>【展開前段】(約25分)</p> <p>T それでは、今日は「雨のバス停留所で」という資料を使って学習していきましょう。先生が今から読みますので、みなさんは主人公よし子さんの心の中をしっかりと考えながら聞いてください。(資料を読む。約5分)</p> <p>T よし子さんは、お母さんとお婆さんの家に出かける日でしたね。でも、あいにくの雨でした。しかも、雨脚はいつそう強くなり、風も吹いてきましたね。せっかくのお出かけの日に、ひどい雨だったら、みなさんはどんな気持ちになりますか。</p> <p>C いやな気持ちになります。</p> <p>T それはどうして?</p> <p>C 雨に濡れるのは嫌だし、暗い感じがします。</p> <p>T 雨だとなんだか暗い気持ちになりますね。きっと、のき下で雨宿りをしながら順番にらんでバスを待っている人たちもそんな気持ちでバスを待っていたのでしょうか。並んでいる人達は、時々バスの来るほうを見ていましたが、どうしてバスが来るほうを見ているのかな。</p>

C 早く来ないかな。待ちくたびれたよ。

T 雨が降っているから、いつもより待ち長く感じているかもしれませんね。だから、早くバスが来ないかなという気持ちだったのでしょうかね。それは、バスを待つ人も、よし子さんも同じ気持ちだったのでしょうかね。

【場面把握 約3分】

14:25

T そして、やっとバスが来たとき、よし子さんは並んでいる人たちを追い越して、停留所の先頭に並んだのですが、よし子さんはどんな気持ちがあつてバス停の先頭に並んだのでしょうか。道徳ノートの1に書いてみましょう。(約3分) それでは発表してください。

C 早くバスに乗りたい。(T どうして早く乗りたいのかな?)

C 席に座りたい。(T どうしてそう考えたの?)

C 紙袋が濡れちゃう。(T 紙袋には何が入っていたのかな?)

T そんなよし子さんを、みなさんはどう思いますか。

C ずるいと思います。

C 人のことを考えていないと思います。(T それは、だれのことを考えていないの?)

C 自分勝手だと思います。(T どういうところが自分勝手だと思ったの?)

14:30

T みなさんは、(板書を指し示しながら)よし子さんに対して、このように思ったのですね。では、よし子さんはどのように行動していたら良かったのでしょうか。自分の考えを道徳ノートの2に書いてみましょう。理由も書けるといいですね。(約5分) それでは、発表してください。

(問い返しの発問を行い、ゆさぶりをかけること)

C 順番を守ってお母さんのところにいたほうがよかったと思う。

T 順番を守らないよし子さんを見て、お母さんはどんな気持ちだったと思う。

C はずかしい気持ちだったに違いありません。

T どうしてはずかしいのかな。

C 周りの人たちから白い目で見られるかもしれない。

C 自分がされていやなことはしてはいけないと思います。

T なるほど、相手の立場に立って考えるということですね。

14:38

T みなさんは、このような考えを持っているようですが、では、よし子さんがもし順番を守ってバスに乗ろうとしていたら、バスを待っていた他の人達は、どんな気持ちでバスに乗ることができたと思いますか。

C うれしい気持ちだと思います。

C 気持ちがいいと思います。

	<p>T 順番を守ることで、自分だけでなく周りの人の心も気持ちよくなって、バスに乗ることができるのですね。</p> <p>T それでは、よし子さんにどんな心があれば、順番を守ってバスに乗ろうとすることができたのでしょうか。道徳ノートの3に書いてみましょう。(約3分) それでは、聞いてみましょう。(意図的指名3名)</p> <p>C 順番をきちんと守ろうという心</p> <p>C ゆずり合う心があればいいと思います。</p> <p>C 人のことを考える心</p> <p>T どうしてその心が大事だと思ったの？</p> <p>T きまりを守るということは、自分のことだけではなくて、いろいろな人と仲よく生活できるようになるのですね。そして、きまりを守って行動すると、自分も気持ちよく相手も気持ちよく過ごすことができるのですね。先生も気がつかなかったことをみなさんはよく考えていますね。とても参考になったよ。</p>
<p>14:40</p> <p>14:47</p>	<p><u>【展開後段】(約10分)</u></p> <p>T それでは、今からは自分自身のことについてふり返ってみましょう。この写真を見てください。(写真の提示と説明) このように、きまりを守って生活できたことはありませんか。また、よし子さんのようにきまりを守ることができなかったことはありませんか。また、その時どんなことを考えましたか。道徳ノートに書いて振り返ってみましょう。(約 分：机間指導) 意図的指名で3名(正価値2名、反価値2名程度)</p> <p>C 給食時間に自分は本を読んで過ごしています。ほかのお友達もきちんときまりを守って生活してほしいと思います。そうすることで自分も相手も気持ちよく過ごすことができることに気がつきました。</p> <p>C 学校で順番を守らなかったとき、楽しいはずのブランコが楽しくなくなったことを覚えています。</p> <p>C エレベーターに乗るときによし子さんと同じように人を追い抜かしたことがありました。それが悪いことだと気づかずに乗ってしまったので、よし子さんと同じ気持ちになりました。</p> <p>T 今考えると、そのことをどう思っているの？</p> <p>T そのとき、どんな心が足りなかったのかな？</p> <p>T そんなすばらしい心が〇〇さんの心の中にもあるんですね。</p> <p>T みなさんも、今日の学習を通して、きまりを守ることでいろんな人と仲よく生活できるという素敵な心が自分の中にもあることに気が付くことができましたね。</p>

14:57	<p><u>【終末段階】（約3分）</u></p> <p>T それでは、最後に心のノート70ページを読みましょう。あれ今日学習したこととなんだか似ていますね。</p> <p>一番下の所を見てください。「どんなときでも約束やきまりを大切にする……これが人間のすばらしさです」とありますね。どうしてきまりを守ることが人間のすばらしさなのでしょうか。</p> <p>C 相手の心を考えることができるころだと思えます。</p> <p>T それでは、道徳の時間を終わります。</p>
-------	--







